

日本文学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本文芸形成論特論Ⅰ	『竹取物語』の諸問題	2	久保 堅一	集中(1学期)			日本文芸形成論研究演習Ⅳ
日本文芸形成論特論Ⅱ	〈歴史〉の表現史	2	佐倉 由泰	2学期	水	4	日本文芸形成論研究演習Ⅳ
日本文芸形成論特論Ⅲ	〈生きもの〉の表現史	2	仁平 政人	1学期	水	4	日本文芸形成論研究演習Ⅲ
日本文芸形成論特論Ⅳ	井原西鶴の浮世草子を読む	2	平林 香織	集中(1学期)			国文学特論Ⅲ
日本文学総合演習Ⅰ	日本文学史の考究とその論述	2	佐倉 由泰 横溝 博 仁平 政人	1学期	火	4	国文学研究演習Ⅰ
日本文学総合演習Ⅱ	日本文学史の考究とその論述	2	佐倉 由泰 仁平 政人	2学期	火	4	国文学研究演習Ⅱ
日本古典文学研究演習Ⅰ	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	1学期	月	4	国文学特論Ⅰ
日本古典文学研究演習Ⅱ	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	1学期	月	5	国文学特論Ⅱ
日本古典文学研究演習Ⅲ	源義経をめぐる物語の表現形成	2	佐倉 由泰	1学期	木	2	日本文芸形成論研究演習Ⅴ
日本古典文学研究演習Ⅳ	源義経をめぐる物語の表現形成	2	佐倉 由泰	2学期	木	2	日本文芸形成論研究演習Ⅵ
日本近代文学研究演習Ⅰ	近現代文学における〈異界〉	2	仁平 政人	1学期	水	2	日本文芸形成論研究演習Ⅰ
日本近代文学研究演習Ⅱ	近現代文学における〈異界〉	2	仁平 政人	2学期	水	2	日本文芸形成論研究演習Ⅱ

科目名：日本文芸形成論特論 I / Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：集中（1学期）、単位数：2

担当教員：久保 堅一（非常勤講師）

講義コード：LM98807、科目ナンバリング：LJS-LIT601J、使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本文芸形成論研究演習IV】

1. 授業題目：

『竹取物語』の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Study on “The Tale of Taketori (『竹取物語』 Taketori Monogatari)”

3. 授業の目的と概要：

まとまった物語としては現存最古とされる『竹取物語』は、「作り物語」というジャンルがいかんにして誕生したのか、また、それはどのような発展を遂げてゆくのかといった問題系を考えるうえで、逸することのできない作品である。そのため近世から現代に至るまでに多くの重要な知見が積み重ねられているが、近年は研究がやや停滞傾向にあるといえる。研究の活性化のためには、改めて諸説の整理や見直しをおこない、見過ごされてきた表現、設定の調査や考察などが求められよう。本講義は、そうした立場から、従来の注釈を検討したり、細部の表現の背景を探ったりしながら、成立、構想、作者といったこれまでに論じ尽されてきた観のある『竹取物語』の諸問題を整理し、それらに関する研究の進展を目指すものである。あわせて、後続の文学作品における受容についても論じたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The Tale of Taketori (Taketori Monogatari), the oldest surviving story, is a very important work in terms of the genre of narrative. This lecture aims to revisit the various issues of Taketori Monogatari, such as its formation, concept, and author, and to advance research on those issues. At the same time, I would like to discuss how this tale affects later literary works.

5. 学習の到達目標：

- (1) 『竹取物語』の諸問題の現状や、現在の『竹取物語』研究の水準について理解する。
- (2) 『竹取物語』の成立や後世における受容等の考察をとおして、『竹取物語』の文学史的意義について理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。参考文献の紹介。
2. 『竹取物語』の概要
3. 成立・作者に関する諸説—口承説話との連続と断絶—
4. 物語文学の誕生とその背景
5. 『竹取物語』と神仙思想・神仙譚
6. 『竹取物語』と仏教（1）—仏伝（釈尊伝）と物語の枠—
7. 『竹取物語』と仏教（2）—戒律と難題求婚譚—
8. 『竹取物語』の注釈について—継承と更新—
9. 成立論・再考—材源から考える—
10. 作者論・再考—官人説と僧侶説—
11. 小括：『竹取物語』の諸問題と研究の展望
12. 後続作品における受容（1）—『源氏物語』—
13. 後続作品における受容（2）—『栄花物語』『夜の寝覚』など—
14. 現代における『竹取物語』受容
15. まとめ

（授業の進捗状況を見て、順序の変更があり得ます。）

8. 成績評価方法：

レポート（70%）、授業出席状況（30%）

9. 教科書および参考書：

教科書は室伏信助訳注『新版 竹取物語』（角川ソフィア文庫）とするが、手持ちのテキストがあるならばそれを使用してもかまわない。適宜、プリントを配布しながら講義してゆく。

10. 授業時間外学習：

『竹取物語』を通読してから臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本文芸形成論特論Ⅱ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LM23402， 科目ナンバリング：LJS-LIT602J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本文芸形成論研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：

（歴史）の表現史

2. Course Title (授業題目)：

Reserch on History which Described Various Literary and Cultural History

3. 授業の目的と概要：

演習形式を取り入れた授業を通して、文学、文化、社会を語るさまざまな歴史叙述（研究史も含まれる）がどのように形成されてきたのかというその表現史について考究する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this lecture, you will clarify mechanism of expressions of history which described literary and cultural history.

5. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、洞察力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに
2. 歴史を語る表現史とは—
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表 [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

各回の授業で取り上げるさまざまな記述をあらかじめ精読して授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、幅広く考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：日本文芸形成論特論Ⅲ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：仁平 政人（准教授）

講義コード：LM13402， 科目ナンバリング：LJS-LIT603J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本文芸形成論研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：

〈生きもの〉の表現史

2. Course Title (授業題目)：

History of the Literary Expression of "living things"

3. 授業の目的と概要：

この授業では、動植物に限らず対象を〈生きもの〉として形象化する文芸上の表現とその意義、またそれを成り立たせる多様なコンテキストについて、古典から近現代にいたるまで幅広く考察を行う。授業は演習形式で行われる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will examine a wide range of literary expressions that expresses an object as <living thing>, their significance, and the various contexts that make them possible, from classical literature to modern literature.

5. 学習の到達目標：

資料の読解力を高めるとともに、古典から近現代に至るまでの幅広い文学表現についての教養を蓄え、自身の研究に応用する視点を獲得する。また、口頭発表と討議を通してディベート力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To improve reading comprehension as well as acquire a knowledge of a wide range of literary expressions from classical literature to modern and contemporary literature, and acquire a perspective for applying it to one's own research.

Develop debate skills through oral presentations and discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 担当者による口頭発表と討論

3. 担当者による口頭発表と討論

4. 担当者による口頭発表と討論

5. 担当者による口頭発表と討論

6. 担当者による口頭発表と討論

7. 担当者による口頭発表と討論

8. 担当者による口頭発表と討論

9. 担当者による口頭発表と討論

10. 担当者による口頭発表と討論

11. 担当者による口頭発表と討論

12. 担当者による口頭発表と討論

13. 担当者による口頭発表と討論

14. 担当者による口頭発表と討論

15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表（60%）・授業への参加（出席・質疑応答）（40%）

9. 教科書および参考書：

参考文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：

授業で取り上げるテキストを受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

なし

科目名：日本文芸形成論特論Ⅳ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：集中（1学期）、 単位数：2

担当教員：平林 香織（非常勤講師）

講義コード：LM98808、 科目ナンバリング：LJS-LIT604J、 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国文学特論Ⅲ】

1. 授業題目：

井原西鶴の浮世草子を読む

2. Course Title (授業題目)：

Study on Ihara Saikaku's Ukiyo Zoushi (浮世草子)

3. 授業の目的と概要：

井原西鶴の短編小説を読む。様々な世態風俗の活写を味読し、西鶴が描こうとした〈人ごころ〉について考察を深める。また、日本古典文学の水脈や時代背景などが反映された作品の重層的な表現構造を分析することによって、さまざまな価値観を同時に表現する西鶴の方法や、俯瞰的な現実を表象する立体的なテキスト構造について理解する。なお、「西鶴を読む」方法として、音読や黙読のほか、さまざまなブレイクストーミングによる多角的な読みやグループ討議も行い、西鶴テキストのイメージ喚起力について体感的に学修する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this lecture, you will read Ihara Saikaku's short story. You will read the description of various social customs with real appreciation, and think deepen about his thoughts on the "hito-gokoro" that Saikaku tried to describe. In addition, by analyzing the multi-layered expression structure of works reflecting the historical background of classical literature, you will understand Ihara Saikaku's method of expressing various values at once, and the three-dimensional method of representing reality from a bird's-eye. In addition to reading aloud and silently, by conducting various brainstorming readings and group discussions, you will learn about the power to evoke the image of Ihara Saikaku text.

5. 学習の到達目標：

- (1) 西鶴の文学的特質を日本文学史の流れのなかに位置づけることができる。
- (2) 西鶴の小説テキストをていねいに読み込むことができる。
- (3) 作品の余白について思考を巡らすこと、作品の文学的魅力を説明することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに 講義の概要と井原西鶴の文芸について
2. 『好色一代男』巻八第三章「都のすがた人形」を読む
4. 『西鶴諸国ばなし』巻二第五章「夢路の風車」を読む
5. 『西鶴諸国ばなし』巻五第六章「身を捨てて油壺」を読む
6. 『好色五人女』巻四「恋草からげし八百屋物語」巻一・巻二を読む
7. 『好色五人女』巻四「恋草からげし八百屋物語」巻三・巻四・巻五を読む
8. 『本朝二十不孝』巻二第二章「旅行の暮の僧にて候」を読む
9. 『本朝二十不孝』巻四第二章「枕に残す筆の先」を読む
10. 『懐硯』巻一第二章「照を取る昼舟の中」を読む
11. 『懐硯』巻五第一章「面影の似せ男」を読む
12. 『本朝桜影比事』巻二第一章「十夜の半弓」を読む
13. 『男色大鑑』巻一第五章「墨絵につらき剣菱の紋」を読む
14. 『日本永代蔵』巻一第二章「浪風静かに神通丸」を読む
15. まとめ 西鶴の表現の仕掛け―挿絵から読み解く

8. 成績評価方法：

レポート70% 受講態度30%

9. 教科書および参考書：

毎回の講義資料を初回に配布する。参考書：『西鶴が語る江戸のミステリー 西鶴怪談奇談集』（2004年、ペリかん社）、『西鶴が語る江戸のラブストーリー 西鶴恋愛奇談集』（2006年、ペリかん社）、『西鶴が語る江戸のダークサイト 西鶴暗黒奇談集』（2011年、ペリかん社）

10. 授業時間外学習：

事前学習：各回で扱う作品を事前に読んでおく。

事後学習：各回で扱った作品を読み直す。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：日本文学総合演習 I / Japanese Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰、横溝 博、仁平 政人（教授、准教授）

講義コード：LM12403， 科目ナンバリング：LJS-LIT605J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国文学研究演習 I 】

1. 授業題目：

日本文学史の考究とその論述

2. Course Title (授業題目)：

Research of History of Japanese Literature

3. 授業の目的と概要：

論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this seminar based on practice of writing a paper, you will clarify the characteristics of each work in Japanese literature and its expressions. And you are going to position significance of its characteristics widely in literary and cultural history.

5. 学習の到達目標：

日本文学を着実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (1)
2. ガイダンス (2)
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表 [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。

参考書は、随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

この授業は I・II を連続して履修すること。

科目名：日本文学総合演習Ⅱ／ Japanese Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰、仁平 政人（教授、准教授）

講義コード：LM22402， 科目ナンバリング：LJS-LIT606J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国文学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

日本文学史の考究とその論述

2. Course Title (授業題目)：

Research of History of Japanese Literature

3. 授業の目的と概要：

論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this seminar based on practice of writing a paper, you will clarify the characteristics of each work in Japanese literature and its expressions. And you are going to position significance of its characteristics widely in literary and cultural history.

5. 学習の到達目標：

日本文学を着実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表 [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。

参考書は、随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。

科目名：日本古典文学研究演習 I / Study of Japanese Classical Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：横溝 博（教授）

講義コード：LM11401， 科目ナンバリング：LJS-LIT607J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国文学特論 I 】

1. 授業題目：

『源氏物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：

『源氏物語』「若菜上」～「柏木」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジюмеとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this class, you will read the volume captioned from 'Wakana Volume one' to 'Kashiwagi' in Genji Monogatari. The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：

『源氏物語』「若菜上」から「柏木」巻を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)
2. 講義 (「若菜上」巻までの物語の流れ、第二部の構成、物語の人物について)
3. 「若菜上」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「若菜上」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「若菜上」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「若菜上」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「若菜下」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「若菜下」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「若菜下」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「若菜下」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「柏木」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「柏木」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「柏木」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「若菜上」～「柏木」巻の自由発表×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「若菜上」～「柏木」巻の自由発表×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート (発表のまとめ) の内容 [60%]、授業への参加 (質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】岩波文庫『源氏物語 (五) 梅枝～若菜下』(岩波書店、2019 年)、同『源氏物語 (六) 柏木～幻』(岩波書店、2019 年) を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院、2012年）がある。また、神田龍身『平安朝物語文学とは何か：『竹取』『源氏』『狭衣』とエクリチュール（MINERVA 歴史・文化ライブラリー 36）』（ミネルヴァ書房、2020年）。その他、参考文献は随時紹介する。

1 0. 授業時間外学習：

毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

- ・本演習は、第 6 セメスターを第 5 セメスターと合体して、前期開講の連続授業としている。そのため、2 時間とも履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅱ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：横溝 博（教授）

講義コード：LM11502， 科目ナンバリング：LJS-LIT608J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国文学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

『源氏物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：

『源氏物語』「若菜上」～「柏木」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジюмеとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this class, you will read the volume captioned from 'Wakana Volume one' to 'Kashiwagi' in Genji Monogatari. The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：

『源氏物語』「若菜上」から「柏木」巻を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（発表者及びローテーション決定）
2. 講義（「若菜上」巻までの物語の流れ、第二部の構成、物語の人物について）
3. 「若菜上」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「若菜上」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「若菜上」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「若菜上」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「若菜下」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「若菜下」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「若菜下」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「若菜下」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「柏木」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「柏木」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「柏木」巻の輪読×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「若菜上」～「柏木」巻の自由発表×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「若菜上」～「柏木」巻の自由発表×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容 [60%]、授業への参加（質疑応答を含む） [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】岩波文庫『源氏物語（五）梅枝～若菜下』（岩波書店、2019年）、同『源氏物語（六）柏木～幻』（岩波書店、2019年）を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院、2012年）がある。また、神田龍身『平安朝物語文学とは何か：『竹取』『源氏』『狭衣』とエクリチュール（MINERVA 歴史・文化ライブラリー 36）』（ミネルヴァ書房、2020年）。その他、参考文献は随時紹介する。

1 0. 授業時間外学習：

毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

- ・本演習は、第 6 セメスターを第 5 セメスターと合体して、前期開講の連続授業としている。そのため、2 時間とも履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅲ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

Semester：1学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LM14203， 科目ナンバリング：LJS-LIT609J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本文芸形成論研究演習Ⅴ】

1. 授業題目：

源義経をめぐる物語の表現形成

2. Course Title (授業題目)：

Research on Tales about Minamoto-no-Yoshitsune (源 義経)

3. 授業の目的と概要：

演習形式の授業を通して、『義経記』等の、源義経をめぐる物語の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかわらせて考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this seminar, you will clarify the characteristics of stories concerning Minamoto-no-Yoshitsune (源 義経). And you will consider various significant problems of literature and culture through reading these classical stories.

5. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 源義経をめぐる物語についての解説
2. 源義経をめぐる物語についての解説
3. 源義経をめぐる物語についての解説
4. 源義経をめぐる物語についての解説
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. 考察発表とそれにもとづく意見交換

8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

本演習のⅣも連続して履修すること。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅳ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LM24203， 科目ナンバリング：LJS-LIT610J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本文芸形成論研究演習Ⅵ】

1. 授業題目：

源義経をめぐる物語の表現形成

2. Course Title (授業題目)：

Research on Tales about Minamoto-no-Yoshitsune (源 義経)

3. 授業の目的と概要：

演習形式の授業を通して、『義経記』等の、源義経をめぐる物語の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかかわらせて考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this seminar, you will clarify the characteristics of stories concerning Minamoto-no-Yoshitsune (源 義経). And you will consider various significant problems of literature and culture through reading these classical stories.

5. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

12. その他：

本演習のⅢから連続して履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習 I / Study of Japanese Modern Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：仁平 政人（准教授）

講義コード：LM13203， 科目ナンバリング：LJS-LIT611J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本文芸形成論研究演習 I 】

1. 授業題目：

近現代文学における〈異界〉

2. Course Title (授業題目)：

Study on "Alien world" in Japanese Modern Literature

3. 授業の目的と概要：

本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈異界〉という概念を手がかりに、多様な社会的・文化的コンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。

受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this exercise is to analyze various novels written from the Meiji period to recent years, taking into account various social and cultural contexts, based on the concept of <alien world>.

Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.

5. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 戦後における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) To learn how to analyze, present and present literary works.
- (2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of literature after the war.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ガイダンス 2
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

本演習は 2 学期も連続して履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習Ⅱ／ Study of Japanese Modern Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：仁平 政人（准教授）

講義コード：LM23203， 科目ナンバリング：LJS-LIT612J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本文芸形成論研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

近現代文学における〈異界〉

2. Course Title (授業題目)：

Study on "Alien world" in Japanese Modern Literature

3. 授業の目的と概要：

本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈異界〉という概念を手がかりに、多様な社会的・文化的コンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。

受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this exercise is to analyze various novels written from the Meiji period to recent years, taking into account various social and cultural contexts, based on the concept of <alien world>.

Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.

5. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 戦後における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) To learn how to analyze, present and present literary works.
- (2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of literature after the war.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ガイダンス2
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

本演習は1学期から連続して履修すること。

